

令和元年度第1回愛媛県地域交通活性化推進会議議事要旨

令和元年8月28日(水) 13:30~15:00
愛媛県議会議事堂4階 農林水産・建設委員会室

1 開会

2 議事

(1) 会長・副会長の選任について

愛媛県地域交通活性化推進会議設置要綱第5条に基づき、委員からの推薦で松村委員が会長に、会長からの指名により山本委員が副会長に選任された。

(2) 愛媛県地域公共交通活性化指針の改正について

事務局から、愛媛県地域公共交通活性化指針および改正背景等について説明後、質疑応答を行った。

(質疑応答)

○近藤委員

公共交通を観光客に使っていただければ、より活性化すると思う。特にしまなみ海道のサイクリングロードは風光明媚なところで、友人もよくサイクリングをしていると聞く。また、地元の西条については、住みたい田舎ベストランキング全国第5位となったことや、石鎚山(瓶ヶ森林道)を車で走るシーンのCM放映等により有名になってきている。せっかくの機会を活用することが必要。人を巻き込み、地域外の人に来てもらうことにより、公共交通の利用につながればいいと思う。

○松村会長

地域の観光は、公共交通あってこそのものである。一方で、観光客に対する情報発信が課題となっている。宿泊や遊び方等を含め、一気通貫で情報提供することが必要。

(3) 生活バス路線・離島航路に係る生活交通確保維持改善計画の概要について

事務局から、上記について説明を行った。委員からの意見等はなかった。

(4) 報告事項

①南予地域の公共交通再編の進捗状況について

事務局から、上記について説明を行った。委員からの意見等はなかった。

②愛媛県鉄道ネットワークあり方検討会について

事務局から、上記について説明を行い、質疑応答を行った。

(質疑応答)

○甲斐委員

あり方検討会では、利用者の声はどのように拾っていくのか。

○事務局

あり方検討会では、直接的に利用者の声を拾う形はとっていないが、沿線市町も検討会メンバーに入っているため、間接的ではあるが、沿線市町を通して利用者の声も拾っていきたい。

○近藤委員

サイクリングの活用を検討とあるが、JRの列車に自転車は載せられるのか。

○窪委員

列車への自転車の持ち込みについては、JR 6社の共通ルールである鉄道営業法に定めがあり、原則的には、自転車を列車に持ち込むには解体して専用の袋に入れる必要がある。ただし、愛媛県はサイクリングに熱心に取り組まれており、JR 四国としてもその取り組みに参画させていただくため、10年来サイクルトレインしまなみ号（松山～今治）と西条しまなみ号（西条～今治）を運行している。この列車には自転車を直接持ち込むことができる。

また、特急宇和海号では、自転車をそのまま持ち込める専用の自転車ルームを設けている。さらに、松山駅、今治駅、宇和島駅では輪行袋のレンタルを行っている。自転車の活用については、今後も様々な機会をとらえて、積極的に取り組んでいきたい。

○松村会長

様々な市町の網形成計画に関わっているが、検討の中心はバスとなってしまう。それだけでなく、鉄道とバスの連携を図っていくことも重要と考える。

○秋山委員

西条市小松町に住んでいるが、多くのお遍路さんが訪れる。また、西条市では外国人の方も増えている中、駅の乗り場で迷っている方も見受けられる。案内板はあるが、外から来られた方に分かりやすくする必要がある。また、モンベルが小松にでき、時折イベントをしているが、伊予小松駅からどのようにいけばいいのか案内がない。外から訪れた人に対して、きちんと案内できるような仕組みが必要。

現在勤めている職場では、数年前まで、バスで通勤した際には、定期券相当額が支給されていたが、現在はガソリン代相当額の支給となっている。公共交通を使った通勤は、健康維持にもつながるため、企業にも電車やバスを利用した通勤を呼び掛けてもらうことが重要ではないか。

○事務局

案内表示の充実については、JRの在り方検討会でも検討を深めていきたい。公共交通機関を利用した通勤の促進については、県でノーマイカー通勤デーを月1回設定し、県内の企業にも参画いただき、通勤時における公共交通機関の利用促進に努めている。あり方検討会においても、JR、バス、タクシー等の公共交通機関を広く使っていただけるよう、県民の方にも健康面等のメリットも含め、上手くPRしていく方策を検討していきたい。

○松村会長

観光案内については、地元の方々や、やる気がある組織と連携をとることも重要。地元の市町で検討いただいた方が早く物事が動く。誰が案内するとか押し付けあうのではなく、やる気がある方に案内していただけたら理想。

愛媛県のノーマイカー通勤デーの取組みについては、平成29年に国土交通大臣表彰を受賞するなど、全国的にも評価されている。公共交通機関を利用した通勤については、ぜひ県の取組みを広げてほしい。

○窪委員

運行ダイヤの設定について、今までは、各交通モードがそれぞれダイヤを設定してきた。JRでは、年1回、3月にダイヤ改正を行っているが、新幹線のダイヤが先に決まり、それに接続させるよう在来線のダイヤを決めている。今までは、JR四国が独断でダイヤを設定していた面もあったが、これからは、ダイヤ改正前に事前に関係事業者間で時刻調整を行いたいため、事業者間でダイヤを調整する場を設定してほしい。特にJRとバスが並行している区間の時間を調整することにより、お客様にとっては、フリークエンシーが上がる効果が期待できる。

○秋山委員

バスとJRを利用して通勤しているが、交通渋滞が激しい時がある。交通渋滞でバスが遅れた際には、西条駅でJRとの接続が取れない時がある。将来的には、バス専用レーンの検討も行うべきではないか。

○松村会長

愛媛県地域公共交通網形成計画の中で、バス専用レーンや優先レーンを設置することも検討すべきだと思うが、バス専用レーンを作ることにより、渋滞がますます激しくなることも考えられ、実現は難しい面もある。まずは、行政計画の中で何を優先するのか順位付けをする必要がある。

○事務局

活性化指針の中では、バス優先レーンの検討等、運行環境の改善に取り組むといった記載もあるため、より良い公共交通になるよう努力してきたいと考えている。

○松村会長

今回いただいた意見は、指針の方に反映させてほしい。最初に甲斐委員から質問もあつたが、利用者を巻き込むためには、利用者に公共交通が良くなっているという感覚を持ってもらうことが必要である。そのためにも、MaaS やオープンデータ等の実証実験等に積極的に参画していただきたい。

○横手委員

公共交通を活性化させるためには、地域住民に利用する気になってもらう必要がある。そのためには、公共交通に乗るよう、県民の機運を高めることが重要。例えば、若者向けにスマホアプリ等で情報提供を行ったりする必要があるのではないか。

また、免許を返納したお年寄りを、どのように公共交通にシフトさせるのか考える必要がある。パークアンドライドなど小さいことかもしれないが、そのような場を作ることで、公共交通に乗りやすくなると考える。

さらに、公共交通の利用は CO2 の排出削減など、環境面にもメリットがある。愛媛県は、まじめにこれらの事柄に取り組んでいるということを小学校などで発信出来ればいいと思う。

○松村会長

良いサービスを作っても、実際に利用してもらえなければ意味はない。自身もモビリティ・マネジメント団体の専務理事を務めているが、全国では様々な取り組みが行われているので、ぜひ参考にしていきたい。

また、移動困難者と言えば高齢者を想定しがちだが、高校生も移動困難者である。他県では、高校生自身が公共交通に関するアプリを作成している事例等もあるため、教育委員会等と連携しながらできればいい。

○欠席者等

欠席：愛媛県私鉄労働組合連合会事務局長 宮崎委員

代理：愛媛県旅客船協会会長 清水委員代理 宮本事務局長

新居浜市長（県市長会会長）石川委員代理 平岡事務局長

八幡浜市長 大城委員代理 藤堂総務企画部長